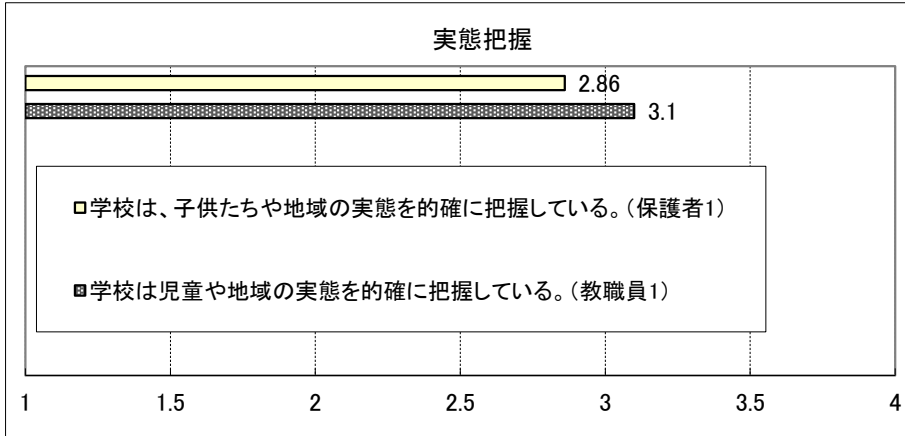


# 令和5年度 保護者、教職員、児童の意識の平均値の比較

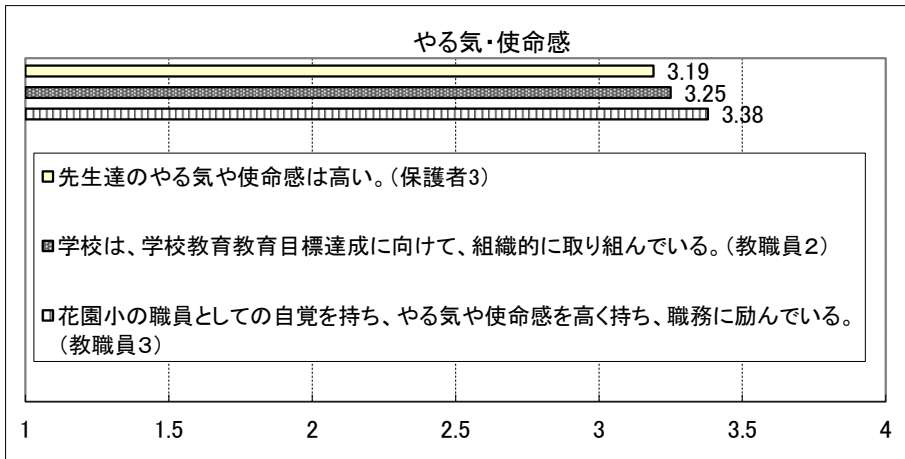
※そう思う…4点 ややそう思う…3点 あまりそう思わない…2点 そう思わない…1点で換算した平均値



【○考察及び●対策】

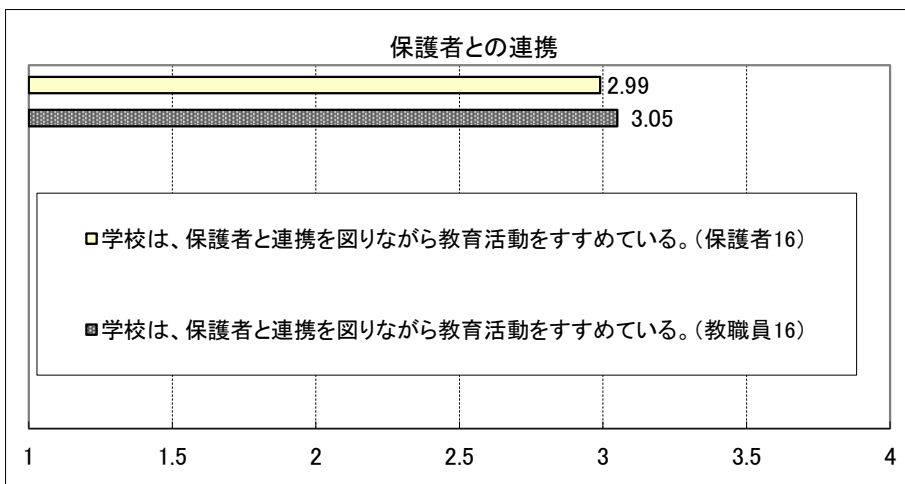
○昨年度との比較では、平均値は保護者が0.05ポイント上がり、教職員が0.1ポイント下がった。保護者と教職員とは0.39ポイントの差になり、意識の差が浮き彫りとなった。

●保護者の評価はわずかに上がり、教職員の評価は下がったものの、保護者の評価は3を下回る結果となった。学校教育目標達成のためにも、児童の正確な実態把握は必須である。これまで同様、子供たち一人一人に寄り添い、地域・保護者との連携をさらに充実させなければならない。



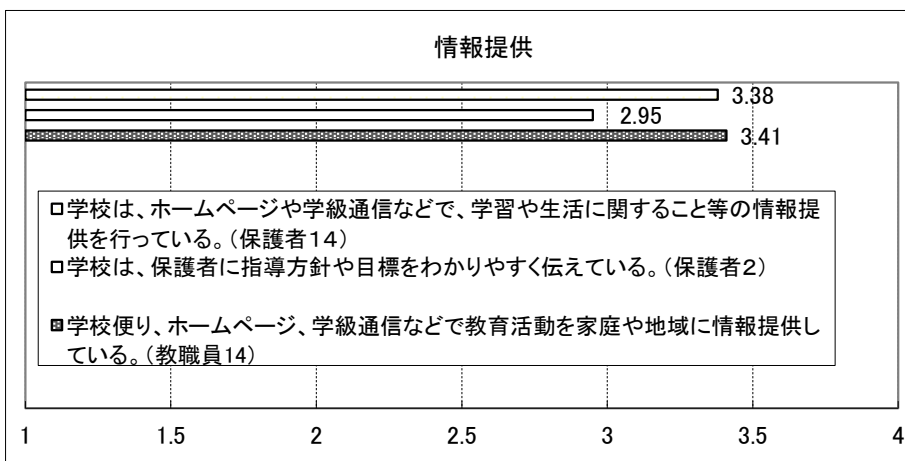
○昨年度との比較では、保護者が0.05ポイント上がり、教職員の評価はどちらも下がったが、全てが「3」をこえる高い平均値を示している。

●高い使命感を持って職務を遂行することができるよう、教職員は教育行動指標「認め、ほめ、励まし、伸ばす」と熊本県教職員像を確認する。また教職員としての基本的資質と専門性を高めていくことができるよう、日々研修を積み重ねなければならない。



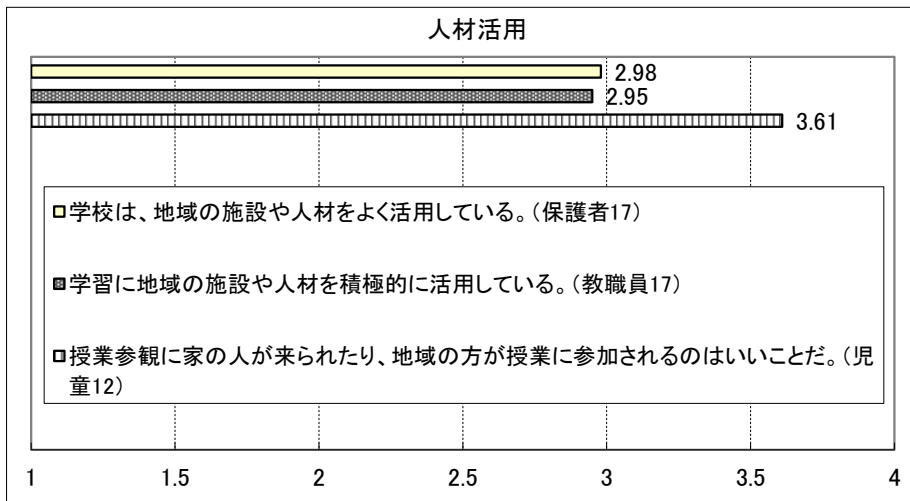
○昨年度より、保護者の評価は0.14ポイント上がり、教職員は0.1ポイント下がった。

●保護者との連携を図りながら、授業参観や運動会等、諸行事を実施することができたことに感謝したい。学級通信や学校便り、ホームページで情報を送るばかりではなく、アンケート等で保護者の意向をくみ取る機会を増やすなど、双方向のやりとりができるよう今後も連携の方法を模索していかなければならない。



○保護者の評価が両項目とも昨年に比べると大きく伸びたが、教職員は0.14ポイント減少している。特に指導方針や目標における保護者の評価が相対的に低い。

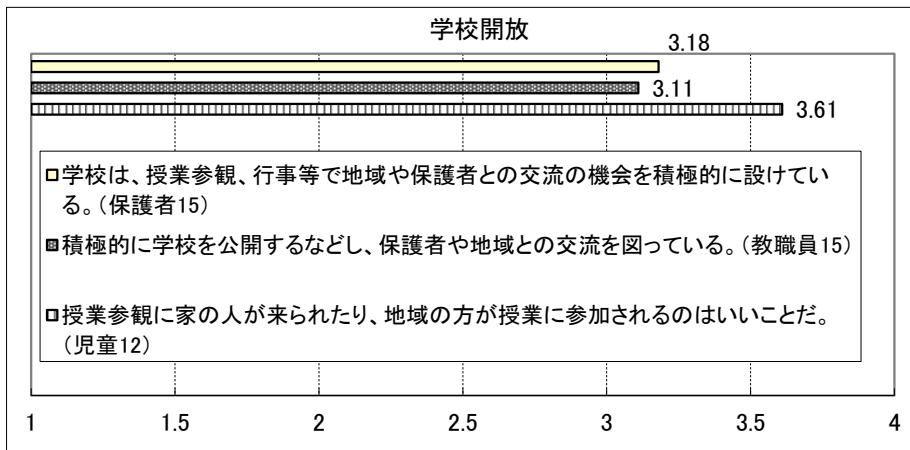
●PTA総会がない場合はグランドデザインについて各担任が最初の学級懇談会で触れるなど、学校の指導方針を伝える為に今後も工夫が必要になる。できることとして、引き続きホームページや安心安全メール、学校便り、学年便り、学級通信等を活用した情報提供に努め、更に充実させていく必要がある。



#### 【考察及び対策】

○昨年度と比べると教職員の評価が大きく伸びた。読み聞かせや農作物の収穫など、地域の方々と共に活動することができたことが伸びた要因と考えられる。

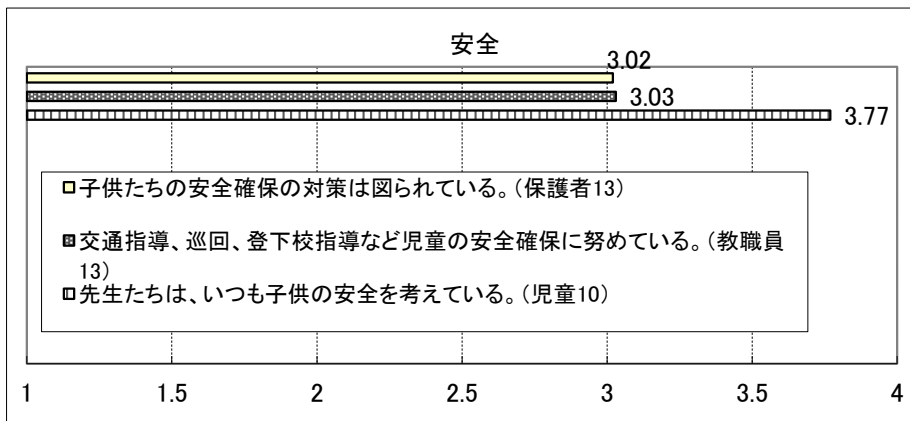
●地域人材の活用をただ増やすのではなく、ねらいにそってどのように活用するかを学年の実態に応じて精選し、少しずつ数値が増えていくような取組をしていかなければならない。



#### 【考察及び対策】

○授業参観や運動会はコロナ禍前と同様に実施できたものの、数値は保護者、教職員、児童どれも昨年度とほぼ変わらなかった。

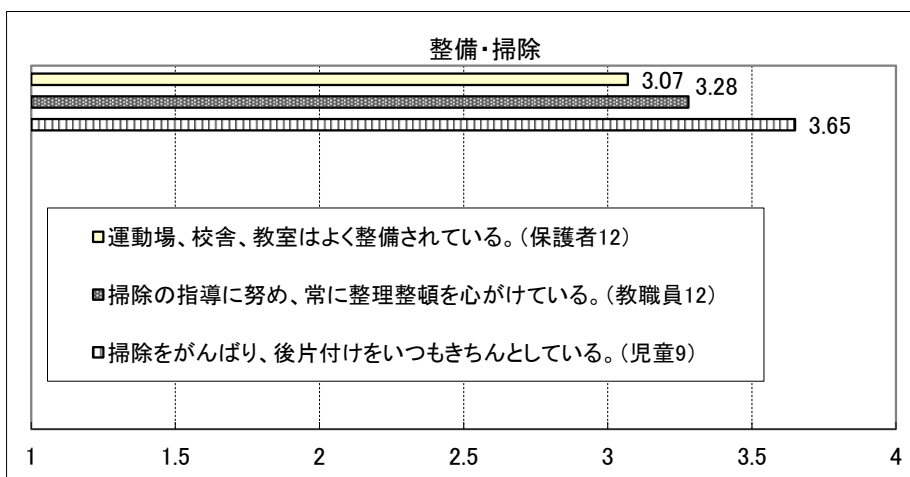
●必要に応じた感染拡大防止の取組は継続しつつ、行事等を精選した上でできることを工夫し、ねらいを達成するための方策を検討していく必要がある。保護者への周知徹底の工夫も必要になると思われる。



#### 【考察及び対策】

○保護者の評価は昨年より上がり、教職員と児童の評価は下がった。

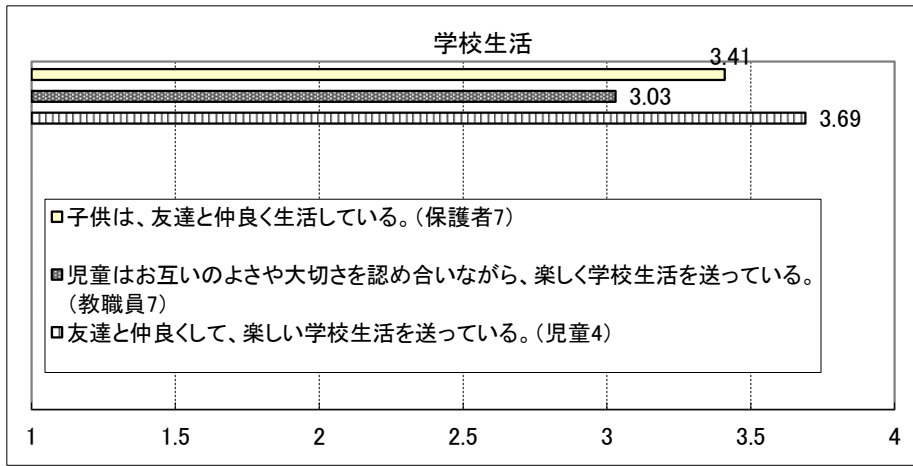
●今年度は地域や家庭での大きな事故は起こってしまっただ。児童の安全確保と安全指導を、危機管理意識を持って確実にを行い、保護者にも指導状況を伝えていきたい。学校での指導だけでなく、学級懇談での語りかけや安全安心メールでの呼びかけを継続するなどして、家庭への啓発も工夫が必要である。



#### 【考察及び対策】

○運動場、校舎、教室等の整備の保護者、教職員、児童の評価については、昨年度とほぼ同等である。それぞれ「3」をこえる比較的高い値となっている。

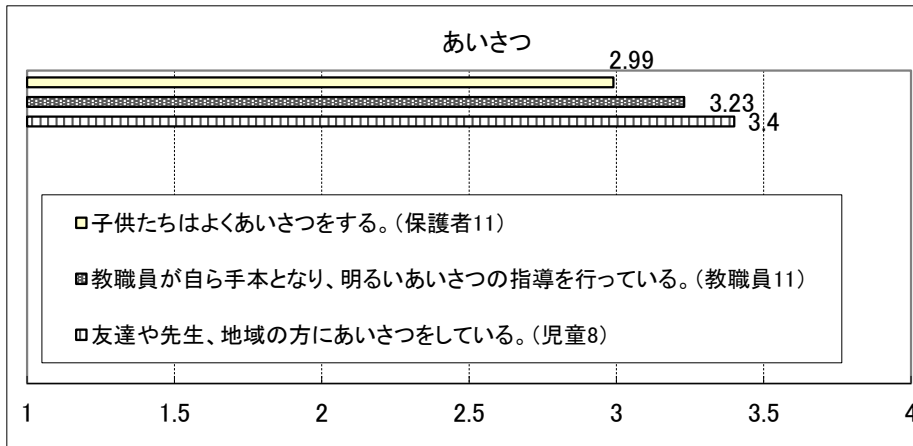
●教職員が高い危機意識を持って教室や体育館、トイレの掃除等の指導を更に徹底したり、教職員も児童と一緒に掃除を行ったりするなど、地道な取組を今後も継続していきたい。また、専門家との連携を図り、より安全な環境づくりに努める必要がある。



**【考察及び対策】**

○保護者、児童の評価は昨年度を上回る高い評価であった。教職員の評価が0.12ポイント下回った。

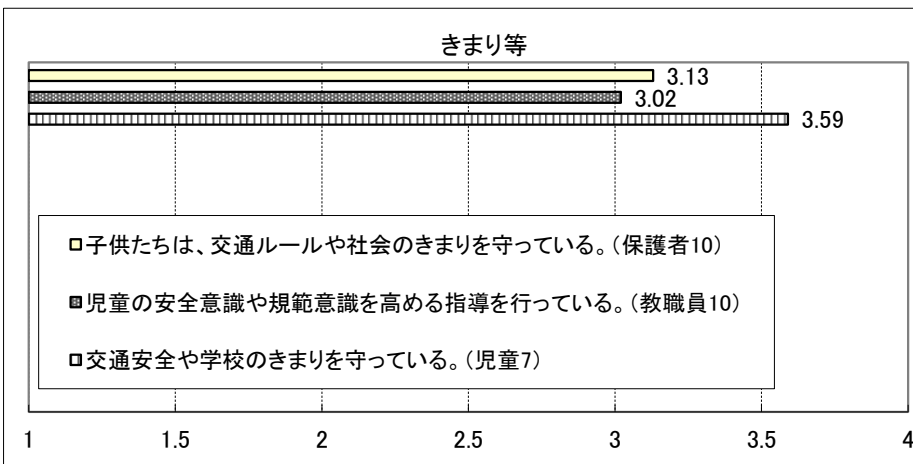
●高い評価となったのは、家庭、地域との連携を図ることができただけでなく、今年度の共通実践事項の一つである「自己有用感を高める学級づくり」に取り組んだ成果であるといえる。今後も児童らが安心・安全で「楽しい」と学校生活を送ることができるよう、家庭、地域と連携を図りながら取組を進めたい。



**【考察及び対策】**

○保護者の評価は伸びたものの教職員・児童共に評価が昨年度を下回った。

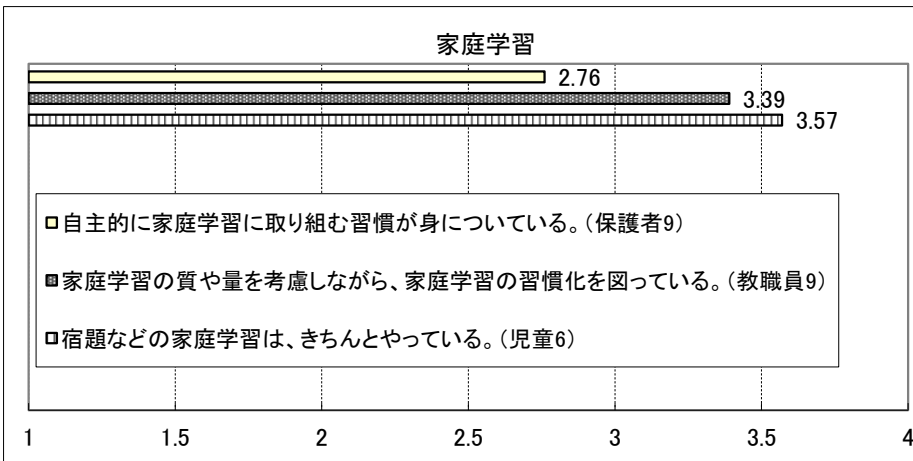
●校内・校外共にあいさつの様子に課題があると職員は捉え、重点的な指導を継続していく必要がある。児童らも委員会活動を中心としてあいさつをよくしようと取り組むことができた一年間だった。地域でも進んで明るいあいさつができるように、今後も指導を継続していきたい。



**【考察及び対策】**

○保護者と教職員の数値は昨年度と比べ少し増加し、基準である3.0ポイントを上回っている。児童の評価は、昨年度から0.11ポイント下がっている。

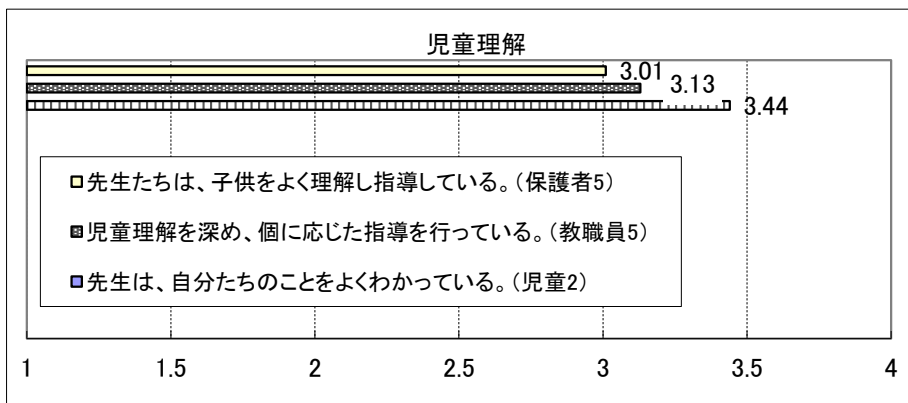
●特に課題となったのは、地域での過ごしかたである。社会のルールや学校の決まりを守ることができるよう、今後も徹底した指導を継続的に行っていきたい。また、ホームページや学校便り、安全安心メール等で家庭への啓発を工夫したい。



**【考察及び対策】**

○昨年度と比較すると保護者で0.09ポイント向上したものの、保護者、児童、教職員全ての平均値の中で最も低い値となったのが保護者の家庭学習における意識であった。

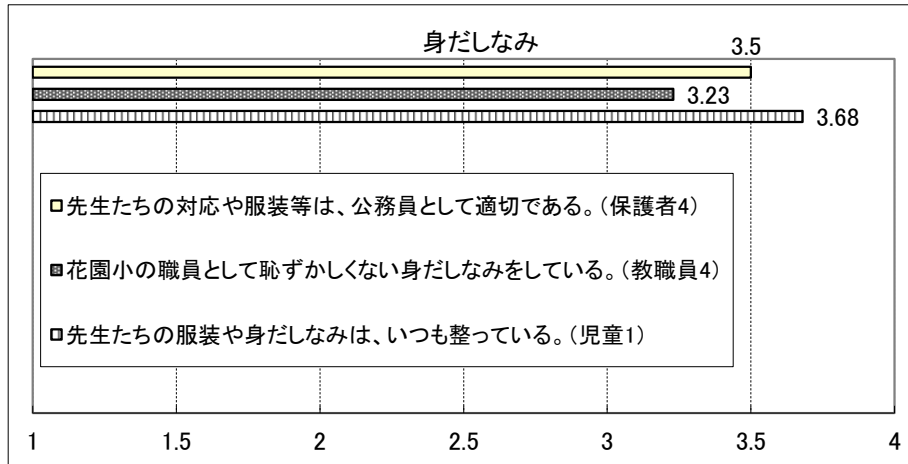
●児童一人一人に学習に取り組む習慣をつけさせるだけでなく、ICTを活用した個別最適化された家庭学習など、工夫した取組で家庭学習の習慣化を図りたい。



**【考察及び対策】**

○保護者が0.07ポイント上昇し、教職員が0.1ポイント下降した。児童の評価は高く、先生から「よくわかってもらっている」と感じている児童が多いことが分かる。

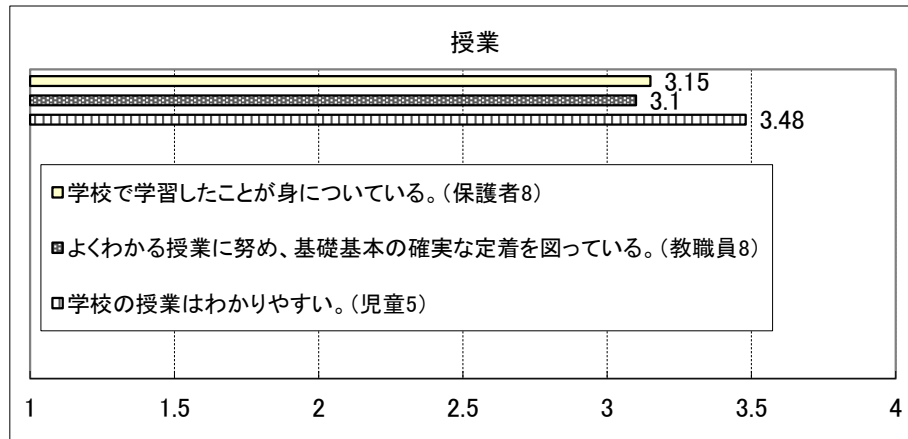
●家庭との連携を図りつつ、日々の学校生活や教育相談等で教師と児童との信頼関係をさらに深め、児童一人一人に寄り添った、個に応じた指導を充実させていかなければならない。



**【考察及び対策】**

○保護者は伸びたが、教職員、児童は昨年度を下回った。全て値が「3.5」に近いのは、日頃の教職員としての心がけが評価につながったと思われる。

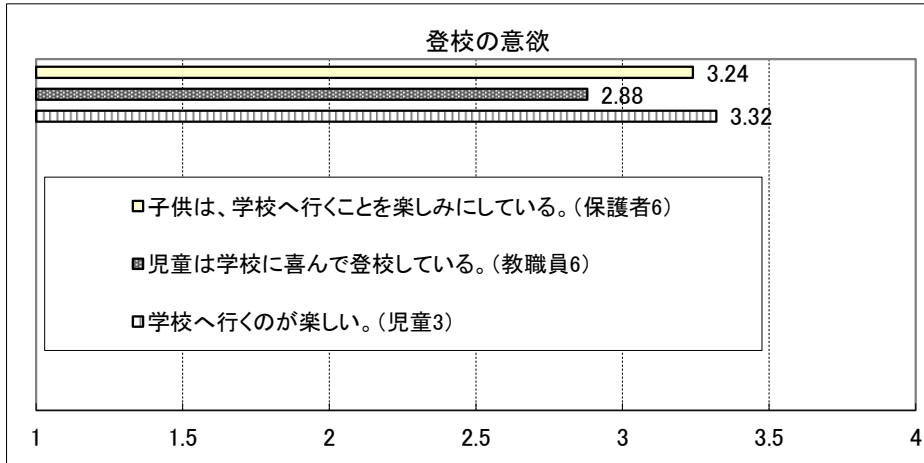
●今後は更に教職員として「常に地域や保護者、子どもたちに見られている」「子どもたちのお手本となる。」等の自覚を持ち服装や身だしなみを整え、教育実践の内容を高めていかなければならない。



**【考察及び対策】**

○昨年度に比べて保護者が0.06ポイント上がったが、教職員が0.23ポイント下がった。児童の評価は昨年度と変わらなかった。

●今年度の共通実践事項である「問いを引き出す導入の工夫」には全職員が取り組むことができたが、その取組と基礎・基本の定着との関連が明確にならなかったことが教職員の評価の原因の一つではないか。県学力調査の結果を分析した上で、今年度残りの期間できることを全力で取り組み次年度に繋がらなければならない。



**【考察及び対策】**

○昨年度に比べて保護者が0.11ポイント上がったが、教職員と児童の評価は昨年度とほぼ変わらなかった。

●今年度も児童が「学校に来たい！」と思うことができるような様々な取組を実践することができた。今後も家庭や専門機関との連携を図り、全職員で共通理解、共通実践を図っていかなければならない。